

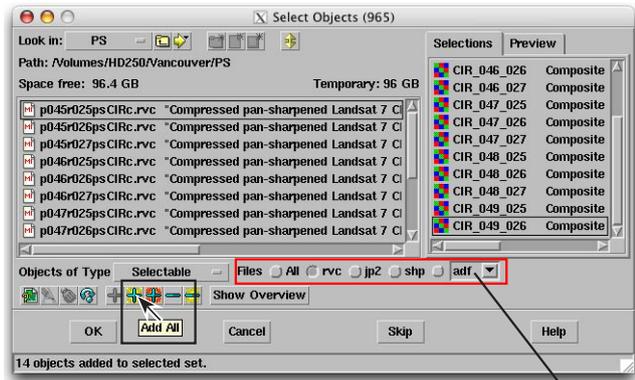
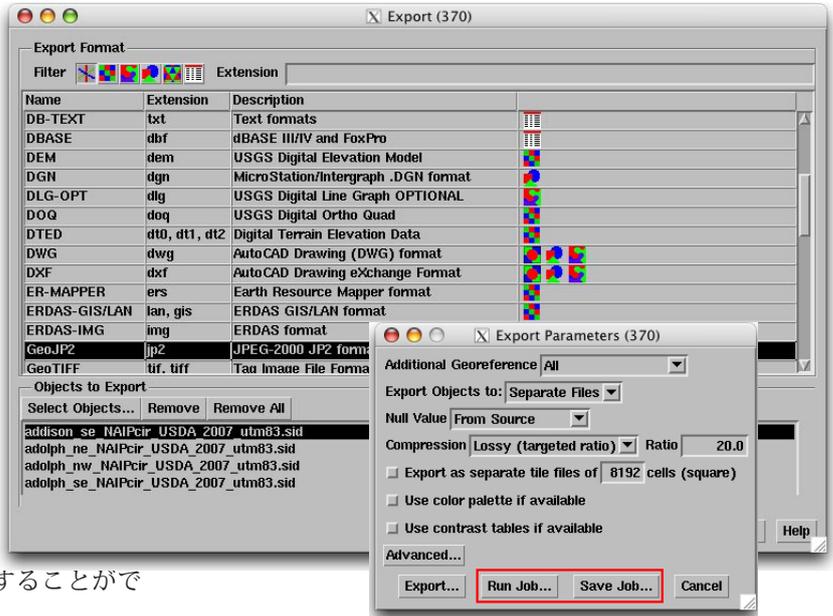
ジョブ処理を使った同時エクスポート

TNTmipsのエクスポート処理および TNTmipsのジョブ処理システムでは、コンピュータのマルチコアを利用して高速同時処理を行うことで、何百個もの空間オブジェクトの大量バッチ処理によるエクスポートを効率的に管理できます。TNTプロジェクトファイルの空間オブジェクトを、サポートされている100種類以上の外部ファイルフォーマットへエクスポートすることが可能です。また、どのような TNT 処理においても、多くの種類の空間ファイル (TIFF/GeoTIFF, MrSID, JPEG, JP2/GeoJP2, Arc Shapefile, DWG 等) を直接選択し利用できるため、エクスポート処理を使って何百個もの MrSID ファイルを GeoJP2 ファイルに直接変換するような、ある種類の外部ファイルを他の種類のファイルに直接的にバッチ変換することができます。

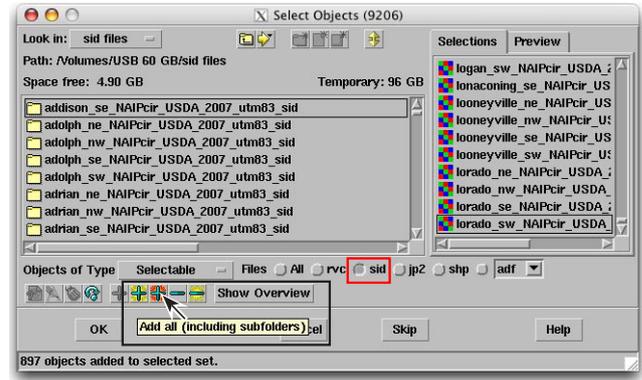
ジョブ処理を使ってエクスポートのバッチ処理を行うには、<エクスポートパラメタ (Export Parameters)> ウィンドウで [ジョブの実行 (Run Job)] または [ジョブの保存 (Save Job)] ボタンを使います。エクスポート処理は、エクスポートするファイルやオブジェクトごとに別々のジョブファイルを作成します。各ジョブファイルでは個別の入力ファイルやオブジェクトおよび指示された出力ファイルの名前と場所を定義します。

エクスポート処理は多数のファイルやオブジェクトを

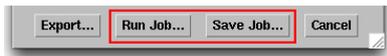
用いて効率的に作業することができるような多くの機能を提供します。特定のタイプのファイルやオブジェクトが多くのサブディレクトリに分かれて存在しているときでも、<オブジェクト選択>ウィンドウ上のコントロールを使えば、それらのファイルやオブジェクトを自動的に選択することができます (下図)。名前自動割り振り機能もあって、出力ファイル全てに簡単に名前を付けることもできます (次ページの図)。



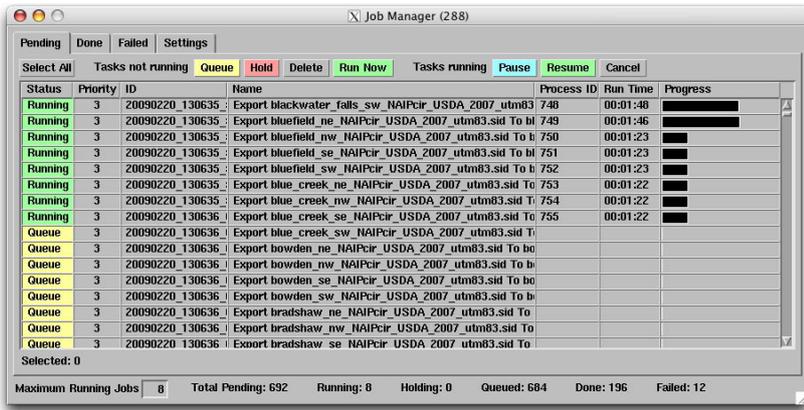
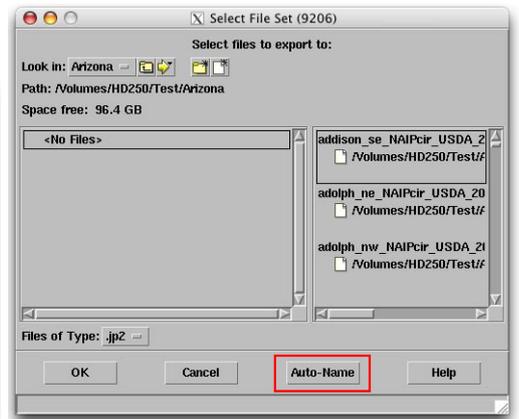
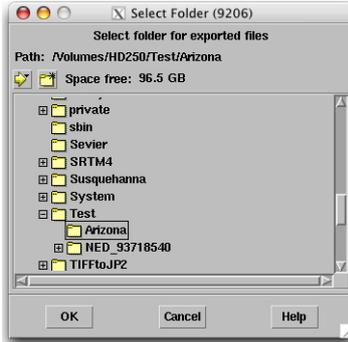
<オブジェクト選択>ウィンドウの [全て追加 (Add All)] アイコンボタン (上図黒枠) を使うと、カレントディレクトリ内の全ての選択可能なオブジェクトやファイル (ウィンドウ左側パネル) を、右側パネルの選択後のリストに追加することができます。[ファイル (Files)] トグルボタン (上図赤枠) を使うと、選択を特定のファイルタイプに自動で制限できます。例えば RVC とか最近使用したフォーマットの1つをトグルボタンで設定したり、またはメニューから希望するフォーマットを選択したりできます。この例では、ディレクトリ中の各 TNT プロジェクトファイルにエクスポートするためのラスタが1個づつ含まれています。[全て追加 (Add All)] アイコンボタンを1回押すと、これらの各ラスタオブジェクトが右の選択後のリストへ追加されるので、各ファイルの中で操作してラスタオブジェクトを手動で選択後のリストに加える必要がありません。



<オブジェクト選択>ウィンドウの [全て追加 (サブフォルダを含む) (Add all (including subfolders))] アイコンボタンを使うと (上図黒枠)、カレントディレクトリ内 (またはそのサブディレクトリ内) の全ての選択可能なオブジェクトやファイルが選択後のリストに追加されます。この例では、MrSID ファイルを JP2 ファイルにエクスポートするので、"sid" のトグルボタン (上図赤枠) がオンになっています。"sid" のトグルボタンが存在しているのは、最近 MrSID ファイルを使ったためです。選択後のリストの各サブディレクトリにはいくつかの補助ファイルと、エクスポートされる1個の MrSID ファイルが含まれています。[全て追加 (サブフォルダを含む)] アイコンボタンを1回押すと、これら全ての MrSID ファイル (この例では 897 個) が自動的に右の選択後のリストに追加され、各サブディレクトリに対して必要な操作をしなくてもかまいません。



<エクスポートパラメタ (Export Parameters)> ウィンドウで[ジョブの実行 (Run Job)]または[ジョブの保存 (Save Job)] ボタンを押すと、エクスポートファイルの出力先フォルダを指定し(右図の<フォルダ選択>ウィンドウ)、出力ファイル名を指定する(その右の<ファイルセット選択>ウィンドウ)プロンプト画面が表示されます。後者のウィンドウ上で[名前の自動割り振り (Auto-Name)] ボタン(赤枠)を押すと、各出力ファイルに入力オブジェクトやファイルと同じファイル名を簡単に付けることができます。



<エクスポートパラメタ (Export Parameters)> ウィンドウで[ジョブの実行 (Run Job)]または[ジョブの保存 (Save Job)] ボタンを押して、出力ファイル名を指定すると、エクスポート処理が各エクスポート用のジョブファイルを別々に作成します。[ジョブの実行]は、全ジョブを実行用の待ち行列に送り、一方[ジョブの保存]は各ジョブに"停止 (Hold)"ステータスを設定します。後でジョブマネージャを使って希望のジョブを手動で開放して実行することができます。ジョブマネージャはジョブのスケジュール管理も行え、決まった時間や週の特定の曜日にジョブ処理を行うよう制限できます。(テクニカルガイドの"システム:ジョブ処理の管理 (System: Managing Job Processing)"を参照)。

